

# 平成30年度 第3回 川口市社会福祉審議会地域福祉専門分科会会議録

1 日 時 平成30年11月27日(火)  
開会 午後2時00分  
閉会 午後3時30分

2 会 場 第二庁舎 地階会議室

3 出 席 者

(1) 委 員 (敬省略)

芝崎 正太, 山喜 光明, 大久保 光人, 宗像 和子  
鈴木 真理子, 鹿嶋 広久, 渡辺 隆志, 江川 肇, 小山 圭三  
須賀 幸太郎, 山崎 豊, 布施 晴美, 安藤 美子, 森下 芳樹

(2) 事 務 局 池田福祉部長 宮澤福祉総務課長

小林係長 野口主事

(株)日本能率協会総合研究所 田中主任研究員

(3) 傍 聴 者 1名

4 会議の概要

区 分	担 当	内 容
1 開 会	事 務 局	開会する旨挨拶する。
	専 門 分 科 会 長	開催する旨挨拶する。
	事 務 局	以降の議事進行を専門分科会長に依頼する。
議題1	専 門 分 科 会 長	以降、進行を務める。
	事 務 局	資料1について説明をする。
	専 門 分 科 会 長	各委員に意見や質問を求める。
	森 下 委 員	アンケートの対象に外国籍の方は含まれているのか。
	事 務 局	川口市第5次総合計画にもあるように外国籍の方も日本国籍の方と同じように扱っている。
	専 門 分 科 会 長	(6)において社会福祉協議会の認知度向上に関する記載があるが、今後の取組について何か社会福祉協議会の常務理事でもある大久保委員にお尋ねしたい。

区 分	担 当	内 容
	大久保委員	PR活動に取り組んでいる。地区社協によってはイベントがあり、3世代交流のイベントもある。社協に関わりがない人に知ってもらうことがポイントだと考えており、フレンジアなどで祭りを行ったり、広報誌を年4回発行し社協の取り組みを知ってもらえるようにPR活動を行っている。子育て世代に向けての事業が少ないので子育て世代にむけてのPR活動が大事だと感じている。
	専門分科会長	町会の行事に参加する機会があるが確かに若い年代の人が参加していることは少なく感じる。
	大久保委員	地区社協は地区社協ごとに構成メンバーが異なっている。保護司の方が入っていたり学校の先生が入っている地区社協もある。学校の先生が入ることで子どもたちが参加しやすくなっているという効果もある。
議題2	事務局	資料2について説明をする。
	専門分科会長	各委員に意見や質問を求める。
	大久保委員	資料2にある「社会的に孤立をしているかたの居場所づくり」においてこども食堂に関する生涯学習課の回答を確認したが、社会情勢を把握した上で教育部局にも協力をしてもらいたい。
	事務局	福祉部局から教育部局に引き続き協力を求めていく必要があると考えている。
	専門分科会長	こども食堂の背景には福祉に関する問題があるので福祉部局から教育部局に協力を求めていくのが望ましいと考えている。
	山崎委員	地域福祉計画のあり方が他の計画を補完するものから他の計画の上位計画となる形に大きく変わった。しかし、行政組織はどうしても縦割になりがちである。今後は地域福祉の計画の趣旨に基づき、分野横断的な対応が求められると考えている。
	安藤委員	以前、サロン活動のスペースができたので援助申請を社会福祉協議会にしたが期限が経過していたため受付してもらえなかった。また、その際に、今後同じような援助事業があるかわからないとも説明された。地域支援のためにスペースがあるのに有効活用ができないのはもったいないので行政から指導をしてもらいたい。
	事務局	市から社会福祉協議会の事業に指導するというのは難しい。しかし社会福祉協議会が開催する地域活動計画推進委員会の際に提言していきたい。
	小山委員	福祉部は福祉部門を管轄して子ども部は児童福祉を管轄しているということでのよいのか。
	事務局	生活困窮者の学習支援や障害児については連携して対応しているが、大まかな管轄としてはお見込みのとおりである。

区 分	担 当	内 容
	大久保委員	補足だが、青少年対策室では子どもの成長過程である青少年を管轄している。いじめに関しても教育委員会で対応しきれなかった問題については子ども部で対応している。障害児も子ども部で対応している。
	山崎委員	地域の中で自発的な取組があったときに行政のなかでどこの部門が受け止めて検討をし、取り組んでいくのか考えていく時期なのではないかとは思っている。
	森下委員	「定年後の孤立、独立」についてであるが、個人差はあれども男性は女性よりも孤立する傾向がある。サロン活動や盛人大学に参加することで孤立や孤独の問題は防げると考えているので参加するよう助長していく必要があると考えている。
議題3	事務局	資料3について説明をする。
	山崎委員	川口に合った共生型サービスについて市民に提示できるような具体的なものを考えないといけない。
	小山委員	長期的な視点では高齢化のピークが過ぎると高齢者の数は減少していくと考えられているが減少するまでは共生型サービスを前提にして動いていかないといけない。
	山崎委員	p46に共生型サービスの充実の記載があるが、65歳以上の障害者が引き続き同じ事業所でサービスを受けられるようにするには施設の整備や人的な支援体制の強化が不可欠である。
	布施委員	文部科学省と厚生労働省が提携して空き教室を用いて子どもたちに安全安心な居場所を提供するというような取組をしていたりするので地域福祉計画においても福祉の分野と教育の分野の横断的な取組を記載を検討するのもよいのではないか。
	専門分科会長	事務局の説明の中で川口市の課題が把握できているのは進歩だと考えている。障害分野、高齢者分野の現場の声も踏まえ、事務局が計画の見直しを行っているのは評価している。計画の見直しまでまだ時間があるので専門的な知見を持っている委員の皆様の意見を参考に課題の解決方法を再度検討してほしい。  進行を事務局に戻す。
閉会	事務局	閉会

以上